

リニア中央新幹線についての定点観測アンケート (2) ～ リニア開業延期に対する地域の意識 (続) ～

前月に引き続き、アンケートの内容を更に見ていく。

1 年齢別では受け止めに若干の違い

リニア新幹線の開通が10年以上遅れることが判明して、当地域のリニアに対する期待度はどうなっているかであるが、例年の設問「Q リニアに期待しますか」では、総合では「期待する」(期待度)が6年度調査は80.6%、(5年度調査83.4%)とやや期待度が低下したかという結果になった。

6年度調査を年齢区分別に見ると、10代、20代が高く、以下70代に向かって徐々に低下し80代以上のところでやや上がるというパターンになっている。

6年度結果とリニア開業延期が発表される前の5年度結果との比較では年代別の傾向(カーブ)はほぼ同様の傾向を辿っているが、前年より期待度が上がった年齢区分(20代、80代以上)、低下した区分(30代、50代、60代)とまちまちとなっている。調査のポリウムゾーンである30代から60代では若干の減少がみられることからリニア開業延期が地域の皆さまの心情に影響しているとも考えられる。

2 地区別では飯田市内で失望感強い

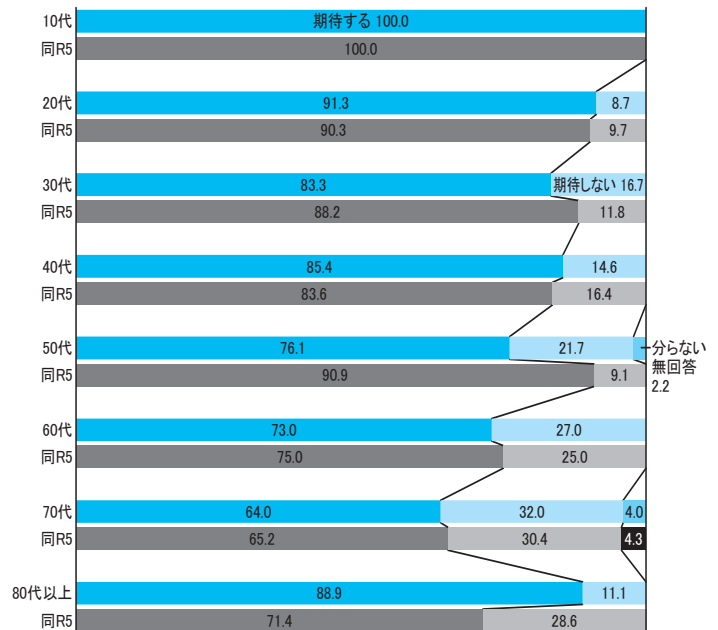
「Q リニアに期待しますか」を地区別で見ると、飯田市内では「飯田市上郷・座光寺地区」の期待度が最も高く、「飯田市・旧市内」「飯田市その他地区」の順になる。

下伊那郡内では、下伊那北部が高く、下伊那南部、下伊那西部がそれに続くという傾向が見られるが、年度により若干の順位変動がある。

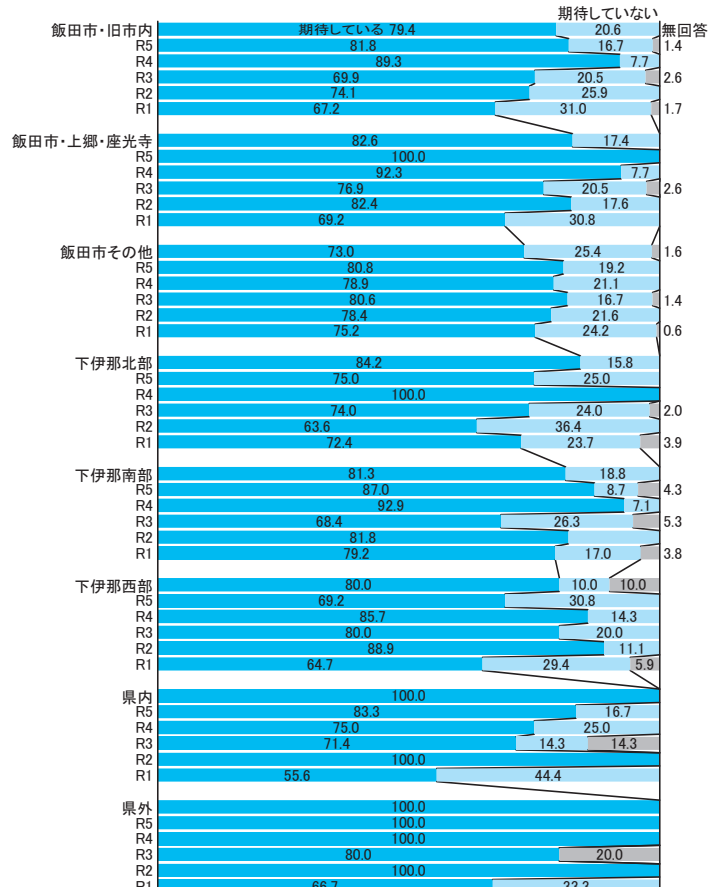
令和元年度からの調査結果でみると、飯田市では、リニア駅が設置される飯田市上郷・座光寺地区が期待度が高く、飯田市旧市内、飯田市その他地区が続くというのが近年定着した感がある。

下伊那郡部では、当初は西部、南部で期待度が高いことがあったが、最近では北部がやや高く、南部、西部がこれに次ぐという状況になっている。

リニアに期待する(年齢区分別)



リニアに対する期待(地区別)



昨年度調査と比較して今年度調査の結果を見ると、飯田市3地区とも期待度が減少しており、リニア開業影響の影響がここに見られると考えられないだろうか。

3 リニア開業延期についての思い

今年度調査では、昨年のリニア開業が10年以上延期が確定したことを受け、調査項目に「Qリニア延期が確定して、リニアを待ち望む気持ち（どうなりましたか）」を設定してお訊きした。結果は右グラフの通り、総合で「薄れた」「やや薄れた」計で41.5%、「変わらない」が51.5%、「やや強まった」「強まった」計で6.1%という結果になった。

この「薄れた」「やや薄れた」をどう考えるかであるが、これをリニアへの強い期待の裏返しと考え、前頁の「リニアに期待する」（期待度）の年齢区分別・地区別の結果と対比する。

まず年齢区分別にみると「薄れた」「やや薄れた」計（失望感）の比率が10代、20代で高く40・50・60代へ向かって凹んでいく形となっている。その中で今年度調査では50代で失望感がやや大きく出ているが、前頁年代別グラフの50代の昨年度期待度が大きかったところと符合するとも見られなくはない。総じて年齢区分別の期待度カーブが失望感のそれと一致していると見られる。

地区別期待度との比較では、期待度の傾向が右上グラフの地区別失望感のカーブと同じ。飯田市内では飯田市上郷・座光寺地区で失望感が大きく、飯田市その他地区、飯田市旧市内が続く。下伊那郡では下伊那北部地区、同南部地区、同西部地区と続いており、失望感は期待度の状況とかなり近いのではと見ることができる。

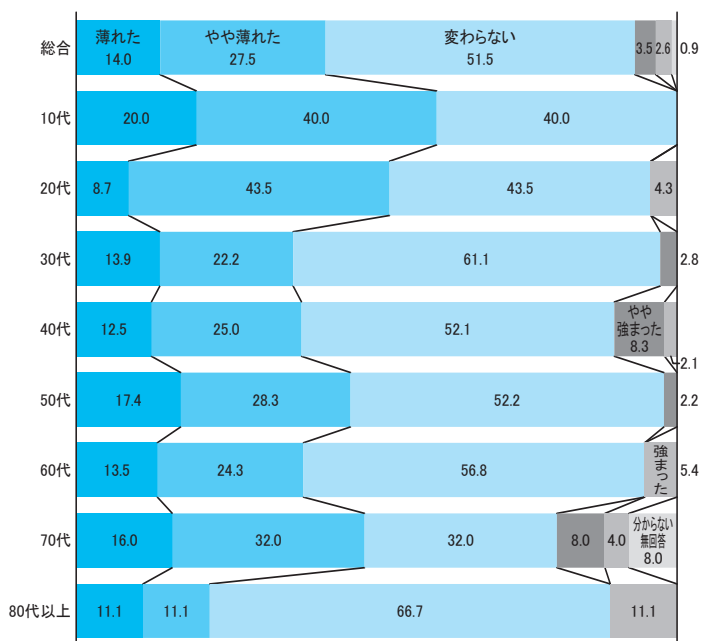
4 地域へ明るい見通しを

昨年、令和9（2027）年と予定されていたリニア開業が10年以上延期になると確定し、地域に失望感が広がったのであるが、前述の通り、調査の「薄れた」「やや薄れた」は強い期待の裏返しであり、リニア開通を待ち望む気持ちの現在値（マイナスの）であるといえる。これから当地域にリニアに関する明るい材料や話題がもたらされれば変化していくものである。

併せて、リニア開通を見据えて地域で取り組むべきことについて、それぞれの立場で進めていくことでもこの期待値は変わっていくのではと考える。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）

リニア開業延期によりリニアに対する思い（年齢区分別）



リニア開業延期によりリニアに対する思い（地区別）

